

大会宣言

われわれ交通労連は第 59 回定期大会を開催し、2022・23 年度の運動方針等を決定した。

新型コロナウイルスの感染拡大は社会の様相を一変させ、長期化するコロナ禍の影響は多くの働く仲間とその家族を直撃しており、雇用や賃金をはじめとする労働条件が脅かされ続けている。一方で、社会的セーフティネットの脆弱性も浮き彫りとなっており、今まさに産業別労働組合の存在価値と役割がこれまで以上に問われている。従来 of 運動スタイル自体を進化させつつ、雇用と労働条件を守るための取り組みをより一層強化していかなければならない。

時代は大きな変革の波に直面しており、産業や雇用をはじめ社会のあり方自体が根本から変わることも考えられる。その中であって、変革の過程で生じる負の影響を出来る限り最小限にとどめ、働く者にとってより良い働き方を実現する機会としていかなければならない。とりわけ「雇用と生活のセーフティネット」などの具体化は急務であり、国と地方の役割分担や各地域における「公共」の重要性とそのあり方が、あらためて問われていると言える。いまだコロナ禍の真っ只中であって、組合員の命と生活を守り抜き、この厳しい状況を打開するには政治の力も欠かせない。このような中で迎える第 49 回衆議院議員選挙、そして来夏の第 26 回参議院議員選挙、さらには各地方選挙においては、支援する候補者全員の勝利に向け組織の総力をあげて取り組む。

交通運輸、自動車学校や関連産業においては、働き方改革への対応をはじめとして、取り組むべき多くの課題が山積しており、「産業政策課題の実現」に向けて関係各所との連携をさらに強め、全力を挙げて取り組まなければならない。同時に「春季生活闘争」と「組織の強化・拡大」を『三位一体』で取り組み、加盟組合にとって魅力と頼りがいのある産別の実現をめざす。

われわれは「自由にして民主的な労働運動」を堅持し、本大会で決定した運動方針に基づく諸活動をすべての加盟組織が一丸となり、力強い運動を展開していく。

以上、宣言する。

2021 年 9 月 15 日

交通労連第 59 回定期大会